第三九期同窓会総会の盛会を祈念して

東鷹同窓会会長
安蘇　龍生
（昭和三十三年卒）

全国各地でそれぞれ活き、活動されている東鷹同窓生の皆さん、その後ますますお元気に過ごされていること拝察しお慶び申し上げます。昨今の世相は、なんとなく落ち着きがない、どちらかと言いますと、ややささくれだった空気が濃くなっているやに見受けられます。今こそ、ゆったりとした精神的に満ち足りた時間がほしいものだとつい思ってしまいます。

しかし、時代がどんな展開をしていこうと私たち一人ひとりが胸に刻んでいる女学校や高校時代の体験や思い出は、それ自体絶対的な、ゆるぎない価値観を伴って存在しているはずです。極端に言ってしまえば、そこだけは他人に浸食されない確固たる心の聖域とも言えます。

母校は、大正十五年（一九二六年）四月一日の県営移管から数えて八十五年の年輪を刻んでおります。（前身の郡立鷹羽学館から数えますと八十八年目になります。）この間に、輩出した同窓生は、実に二四，三八五名になります。全国に、この人数それぞれの人生が存在しているわけです。

日頃は、この同窓生諸兄姉が関東、関西、福岡、北九州の四支部に分かれて、それぞれの地で連帯と親睦を可能な限り深めております。（含まれない海外在住の同窓生もおられますが…）

今年は、会則により、母校のある「ふるさと田川」の地で、同窓会総会並びに懇親会を開催いたします。（会則は、西暦偶数年十一月第二日曜日となっています）既に当番の各学年幹事会が発足、組織され、同窓会の成功に向けて、着々と準備を進めています。

同窓会総会・懇親会の場は、母校の発展をともに喜び、来賓としてご参席くださる懐かしい恩師にお会いし、さらに参集した同窓生が、それぞれの心の聖域を開き、お互いに絆を確かめあう機会として、何ものにも代え難い貴重な場所であり、時間でもあると言えます。

最近の総会・懇親会を振り返りますと、回を重ねるたびに盛会になり、大きな喜びと感謝を感じております。

今回も、これまで以上の、多数の同窓各位が参集され、心の聖域を開いた交流がなされることをお願いしまして、挨拶といたします。

赴任の挨拶

福岡県立東鷹高等学校
校長
實﨑　敏雄

私は、本年四月に若松商業高校より赴任いたしました實﨑と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度の人事異動では、校長、総括教頭、全日制教頭、定時制教頭、事務長、事務次長と管理職が大きく変わりました。これまでにない大規模な異動でした。しかし、生徒を含め学校全体は大変落ち着いています。学校が落ち着いているので、これだけの異動が可能だったのだと一人で納得しております。

学校が落ち着いている背景には、三つの理由があると考えています。

第一は、学校経営に関してです。新しい職として配置されている主幹教諭・指導教諭を核として先生方の連携もとれ各分掌が機能的に動いています。

そして残りの二点は、生徒に関してです。

第二は、生徒部や体育科を中心に学校が大変よくまとまっており、生徒の生活指導をしっかりしていることです。一例として、五月の中旬に行った一年生の「克己心育成のための宿泊体験学習」があります。この宿泊体験で生徒の顔つきが変わってきます。私は、学校における集団での教育は「米を研ぐ」ことと同じだと考えています。米は洗うとは言いません、研ぐと言います。一粒一粒の米が互いにこすれあって輝きを増してきます。そして、おいしいご飯が炊けます。このような教育活動は、日頃の学校行事にも生かされています。本校の体育大会を見ていただければご理解いただけるものと思っています。そして現在取り組んでいる「立ち止まっての挨拶」にも活かされています。これは、立ち止まるということでしっかりと挨拶ができるだけでなく、様々な場面で先生方が生徒を呼んだとき、きちんと立ち止まって話を聞けることに繋がっています。さらに、社会人となってからきっと役立つと考えています。

第三は、特別支援教育や人権教育に関した取組みです。現在本校には、学習面や生活面で様々な課題のある子ども達が入学してきています。このような生徒が、